

尚絅学院大学×ボランティアチームTASKI  
復興支援PROJECTアーカイブ

# 災害復興支援 はじめての一步

Vol.01

復興活動概論編

THE MANUAL FOR DISASTER RECONSTRUCTION SUPPORT



TASKI





## もくじ

1	はじめに	P.2
---	------	-----

2	災害復興の4フェーズ 災害復興、はじめる前に	P.3
---	---------------------------	-----

3	Phase I 支援初動期	P.4
---	------------------	-----

4	Phase II 支援活動期	P.5
---	-------------------	-----

5	Phase III 復興活動期	P.6
---	--------------------	-----

6	Phase IV 新コミュニティ活性期	P.7
---	------------------------	-----

7	おわりに	P.8
---	------	-----

8	メモ	P.9-10
---	----	--------

## 東日本大震災から今年で10年。

10年前を振り返ると、当時の私たちには復興支援活動の経験者もいなければ、対応の手本となるような事例集やマニュアルも手元にはありませんでした。復興支援活動に詳しい方たちから見れば、その様子は学生たちによる「手探りの活動」と思われていたかもしれません。しかし、たとえそうだとすると、被災地域の方たちが大変な思いをしているのは明らかで、大学キャンパスからもほど近い、名取市関上（ゆりあげ）の甚大な津波被害から目を背けることはできませんでした。

復興支援活動のすべてに関わることはできなくても、何か一つでも私たちにできることはきっとあるはず。

そのような思いから、私たち尚綱学院大学と「ボランティアチームTASKI（たすき）」は、名取市にある避難所や仮設住宅を仮住まいとする皆さんへの「寄り添い支援」というかたちで被災地の復興支援に取り組んできました。

専門的な知見や経験に基づいた何か特別なことを実行するのではなく、とにかく被災した住民さんに「寄り添う」ことに徹底して努めてきました。もちろん、何が正しいか、何をなすべきかについて議論したこともありました。そのようなときは、この大震災よりも先に起こった阪神・淡路大震災の被災地域 神戸市からの参加者や、彼らが教えてくれる知識・情報を参考にしてきました。



本書は、次のような方たちが

**災害復興支援の「はじめの一步」**を踏み出すために

手にとっていただくことを目的としています。

※本書では、こうした目的をもった方たちを「支援者」としています。

10年たった今、その軌跡をあらためて振り返ると、しっかりと認識しなければならないことがあることに気づきました。それは、被災地やそのコミュニティの状況、被災者の方々の心情、あるいは彼らが支援者たちに求める内容は、常に変化してきたということです。そして、その振り返りから私たちは、そうした被災地の変化はフェーズごとにとらえることができるし、そうすることで、被災者と支援者との心情・想いの乖離を少なくする可能性があると感じました。

今もなお、日本各地で様々な災害が発生しています。もしかすると、多くの地域は被災地になる可能性があり、どのような人でも「支援者」になる可能性があるということです。もし、自分たちの地域が被災地となったとしたら？復興支援活動に関して何も知見がないまま、その活動に関わりたい、関わらなければならないとなったら？自分が良かれと思って取り組んだ活動が被災者の方々から疎まれないためには？

本書は、尚綱学院大学及びボランティアチームTASKIが東日本大震災後の10年の間、悩みながらも、行動し続けたことで、自分たちなりに理解できたことや考えをまとめたものです。

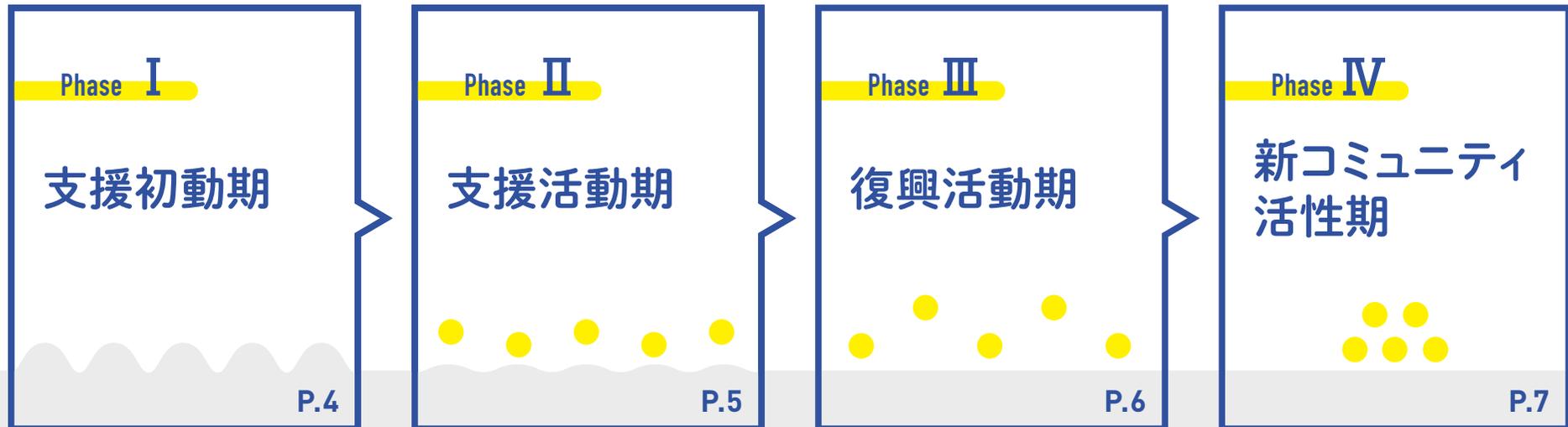
日本中の手探り復興支援活動者たちのために。

尚綱学院大学ボランティアチームTASKI 一同

- ①災害ボランティアに取り組みたい・取り組み始めた大学生・高校生
- ②災害ボランティアに取り組みたい・取り組み始めた教育機関・各種活動団体
- ③災害ボランティアの中でも「寄り添い支援」に取り組みたいと思っているけど、何からはじめればいいのかわからない方
- ④尚綱学院大学ボランティアチームTASKIに参加したい方

# 災害復興、はじめる前に

復興支援活動は、やみくもに取り組んでも、なかなか思ったような結果に結びつきません。  
まずは、被災地がどのような状況にあるかを地方自治体の情報を元に分析してみましょう。  
尚絅学院大学では、以下のように4フェーズにわけて被災地の状況をとらえ、  
それぞれのフェーズにおいて適した対応が何であるかを考えながら取り組んできました。



## 支援初動期

Phase  
I  
支援初動期Phase  
II  
支援活動期Phase  
III  
復興活動期Phase  
IV  
新コミュニティ  
活性期

大きな災害が発生したら、住居や生活インフラへの影響が出るでしょう。  
避難所での生活を余儀なくされる住民も出てくるかもしれません。  
いざその時、「支援者」となる私たちに求められる緊急的な対策や役割を考えてみましょう。

住民の  
状況や  
課題

(1)

## 被災・避難

被災地域住民の住居に損害・  
損失。避難所等での避難生活

(2)

## インフラ不全

土砂・がれきなどによるイン  
フラ機能不全(救援・支援に  
関わる生活道路・上下水道・  
電気)、被災地の孤立

(3)

## ストレス

(1)(2)による被災者(子ども、  
高齢者等)のストレス

(4)

## 資金・物資

復興活動資金・救援物資の募  
集・確保が急務

(5)

## 人的リソース

復興活動に関わる人的リソー  
スの整備・募集が急務支援者の  
役割  
対策  
実践例

- 避難所・仮設住宅の設置状況に関する情報収集、配信
- 損壊家屋の一時的復旧、損壊家具・土砂瓦礫等の撤去
- 仮設住宅建設に伴う入居支援

- 土砂・がれきの撤去作業
- 生活道路の損壊状況の情報収集と配信
- 上下水道の仮設状況の情報収集と配信

- ストレスの原因・状況の確認
- ストレスケアにつながる応急処置・慰問活動(歌や音楽、読み聞かせなど)

- 資金・救援物資等の確保状況確認、物資支援のコーディネート
- 資金・救援物資等の受理・配分フロー整備、配布支援
- 支援金・義援金の募金活動

- 連携団体への呼びかけ、SNS等での発信
- ミスマッチを防ぐコーディネート

## 支援活動期

Phase I

支援初期期

Phase II

支援活動期

Phase III

復興活動期

Phase IV

新コミュニティ  
活性期

一時的な避難所での生活から、応急仮設住宅等での生活へ。  
被災住民の生活基盤が回復するためには、物理的にも心理的にも「支援者」の力が欠かせません。  
慣れない土地や住居で不安な日々を過ごす住民のために、私たちに何ができるでしょうか。



## 復興活動期

Phase  
I支援  
初期  
期Phase  
II支援  
活動  
期Phase  
III復興  
活動  
期Phase  
IV新コ  
ミュ  
ニ  
テ  
ィ  
活  
性  
期

地域や被害状況によって、住宅再建やインフラ整備に要する時間・プロセスは様々。  
いつになれば安定した生活ができるのかと先の見えない不安が続く中、住民コミュニティの力は重要であり、そのサポートが求められます。



# 新コミュニティ活性期

Phase  
I支援  
初期Phase  
II支援  
活動期Phase  
III復興  
活動期Phase  
IV新  
コミュニティ  
活性期

仮設住宅の閉鎖と災害復興公営住宅・再建住宅などの完成により、被災者の新たな生活がスタート。  
しかし復興に終わりはなく、もう一度ゼロからのコミュニティづくりがはじまるのです。  
「支援者」の立場から地域をともにつくる「パートナー」となり、新しいまち・ふるさとづくりを応援していきましょう。

(1)

## 新コミュニティ形成開始

新コミュニティ形成の開始

住民の  
状況

(2)

## ハード面の復旧完了

インフラ整備などのハード面の復旧完了に伴い、  
行政や地域支援団体からの支援活動の減少

課題

- 新コミュニティの機能・役割づくりと組織体制の本格的な構築
- 行政・各種団体の支援を基にしたコミュニティ維持から、住民の主体的行動による自立的コミュニティの形成・確立

- 軽減後も行政・各種団体に求める支援の内容等の整理と、それらとの連携的機能・役割を担う組織の確立
- 行政・各種団体が担ってきた役割・業務内容の補完組織・団体との連携

支援者の  
役割  
対策  
実践例

- 支援者・被支援者の関係団体から連携パートナーとして関係性構築（レギュラー対応からスポット対応的に）
- 自治会などの新コミュニティが地域住民たち自身によって主体的に運営されるための補佐役・相談役を担当

例

住民交流会やお祭りなどのイベント支援、傾聴ボランティア、  
高齢者のフレイル防止（身体的・精神心理的・社会的な不健康の予防）

復興ってなんだろう。

ボランティアチームTASKIは被災地のフェーズの変化と住民の心に寄り添い、手探りながらも「復興のため」にここまで走り続けてきました。しかしフェーズが変わるたびに新しい課題が生まれ、さらなる災害も発生しています。この間に阪神・淡路大震災の被災者から「復興に終わりはない」ことを学んできました。また東日本大震災後に全国で発生した地震・豪雨災害では、私たちと同じよう

な復興支援のプロセスを辿っている様子も見られます。さらに震災から時間が経つにつれて、これまでの経験・教訓・あゆみを、他地域や次世代に伝える必要があると強く感じるようになりました。東日本もまだまだ復興の途中ではありますが、様々な活動から受け取った「襷／たすき」をしっかりと繋いでいくために、このマニュアルが多くの方の支えになることを願っています。

## 活動への参画の仕方

活動情報はこちら

ボランティアチームTASKI  
Twitter



@TASKI\_SHOKEI

【運営】ボランティアチームTASKI

ボランティアステーション  
Facebook



<https://m.facebook.com/shokei.volunteer.station/>

尚絅学院大学  
ホームページ



<http://www.shokei.jp/campuslife/volunteer/taski/>

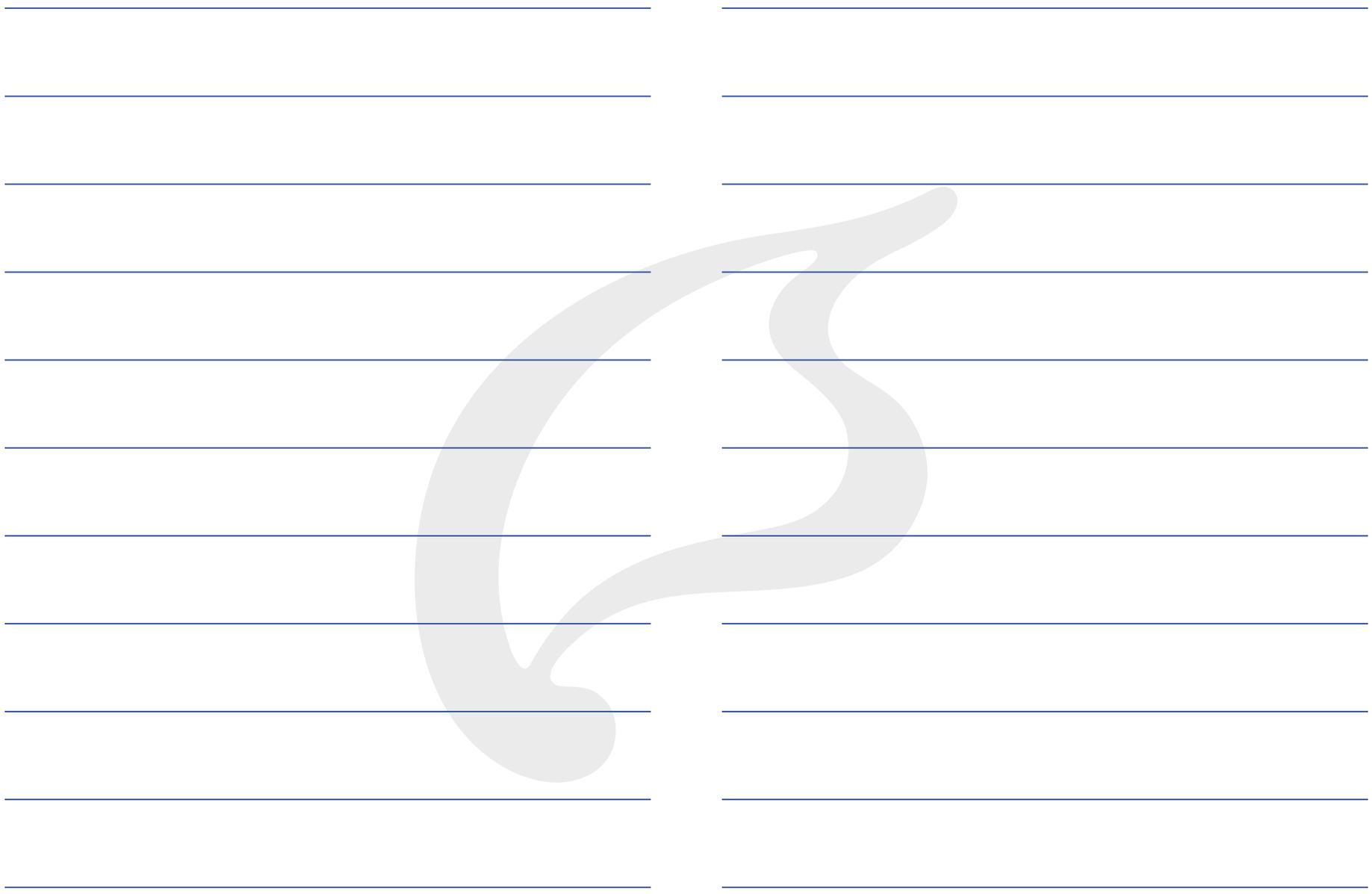
相談先

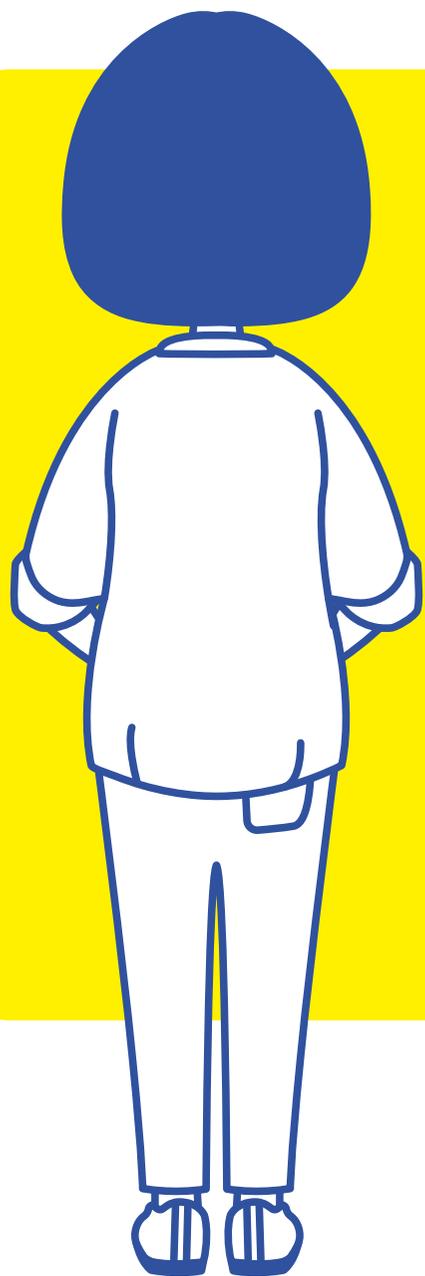
尚絅学院大学 ボランティアステーション

TEL. **022-381-3484**

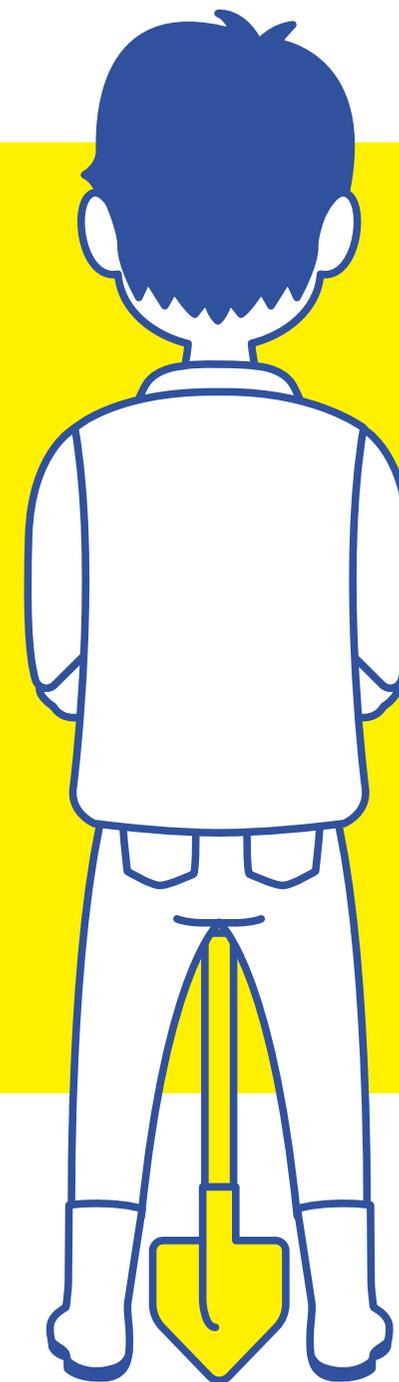
〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1







尚絅学院大学×ボランティアチームTASKI  
復興支援PROJECTアーカイブ



**TASKI**